

ACTIVE GALLERY GUIDE

今月のスポットライト

■写真家インタビュー／村山嘉昭

元気いっぱい川に飛び込む子どもたちの姿を見ると、遠い夏のむせかえるように暑い日が甦ってくる。撮影場所である水辺のシチュエーションに合わせて、作品の展示の仕方にもひねりをきかせた展覧会がこの夏、全国で開催される。

村山嘉昭写真展「川ガキのいるところ」

葛西臨海水族園…7/17～9/2

東京都江戸川区臨海町6-2-3

☎ 03・3869・5152

9:30～17:00 (入園は16:00まで)

ほか大阪府、福井県など各地で開催予定

元気な「川ガキ」の写真を通じて
見る人すべてが、この夏の主人公に

「川ガキ」の作品を契機に
川への関心を高めたい

輝くような目と満面の笑み、バシヤーンという水しぶきの音。村山さんの「川ガキ」の写真を見ていると眠っていた五感が目覚め、懐かしさとともに忘れかけていた原風景が目の前に広がる。元気な川には、今でも必ず「川ガキ」がいる。その魅力を感じ取ってもらうために野外空間での写真展が開催される。「川ガキ」の歓声が聞こえてくる。

● 僕自身、昔から川が好きで、子どもの頃は、神奈川県丹沢まで川遊びに行ったり、学生時代はカヌーで全国の川を下っていました。やがて川の生態や環境問題に興味を抱き始め、長良川の河口堰問題などに関わることで、さらに川への関心が高まってきました。

今ある問題を人に伝えることはとても難しい。問題意識の強い人は別として、なかなか一般の方には、身近な問題として感じてもらえない。川の問題も同じで、もどかしさを感じてきました。そこで、写真家として何かできないかと思っていたところ、ふと川ガキのことが頭に思い浮かんだのです。

自分も童心に帰ることで
子どもたちとの親睦を図る

昔は日本全国どんな川にも川ガキが生息していました。水辺に棲むこの生き物は、魚をはじめとする水生生物が大好きで、橋や岸辺の岩から川へ飛び込んだり、仲間と競い合っ

て泳ぐなど、その生態はさまざま。しかし、水質汚染や河川開発で川に活力が無くなると、川ガキはいつの間にかいなくなります。元気な川にこそ、川ガキは生息できる。川の生命力の指標になっているわけです。

川ガキの写真を撮り始めてもう4～5年くらいになりますかね。まず最初にするのは、カメラを置いて子どもたちと一緒に遊ぶこと。つまり自分も実際に川ガキになって仲間に入れてもらうわけです。岩から飛び込んだり、一緒に泳いだり、魚を追ってみたい、僕自身、心から楽しんで真剣に遊びます。それからおもむろに、川ガキになりきって写真を撮り始めます。実際の撮影時間よりも一緒に遊んでいる時間のほうが圧倒的に多いでしょうね(笑)。

「川ガキ」の視点で
一緒に川を体感してほしい

機材はニコンF4を使っています。F100への買い替えも考えたのですが、どうもしっくりこない。手が小さくて扱いづらいのですが、ダイヤルなどのアナログ感覚が好きなので、今でもF4だけです。

レンズは、17mm35mm、28mm70mm、80mm200mmという3本のズームを中心に使い分けています。ピントはマニュアルで合わせることが多いですね。子どもの動きは速いし、予知できないことが多いですから、ついていくのが大変です。でもそこがまた、面白い。

水の中でも写真を撮りたかったから、ハウジングも特注で作りました。とにかく軽量化にこだわったので、アクリルを極力薄くしてもらい、何度も話し合い、僕の使い勝手に合わせてもらいました。でも、ほとんどの場合、軽快に川ガキを撮影したい

1枚1枚の写真に僕と川ガキとの思い出が詰まっています

むらやま・よしあき
1971年横浜市生まれ。雑誌社の写真部勤務、テレビ・ラジオ局の広報写真を経て、現在は人と自然のかかわりをテーマにした取材や撮影を行なう。学生時代から全国各地の川をカヌーで下り、「川ガキ」をキーワードとして水辺環境の大切さを紹介している。
URL <http://www.kawagaki.net>



ので、裸のカメラを持って川へ入ります。おかげでもう、2～3台のF4を水没させてしまいました(笑)。撮影中もいろいろなことがありますが、この写真は兄弟なのですが、お兄ちゃんの泳ぎがとにかく凄い。お兄ちゃんばかり撮っていたら、弟が膨れてしまいました。そこで、今度は君が主役だよ、なんて言いながら、なだめてバシヤバシヤ撮っていたら、ようやく機嫌を直してくれて撮った写真がこれです。1枚1枚の写真にさまざまな思い出やエピソードがありますね。

今回の写真展は、場所や展示の仕方にも工夫を凝らしました。写真ギヤラリーでやるよりも、実際に川ガキがいる風景を再現した中で見てもらいたかったのです。そのほとんどが屋外の川や水のある場所で開催されます。どうぞ大人も子どもも川ガキになって、写真を見て下さい。あるところでは水に入りながら。

この写真展をきっかけにして、川や環境のことを身近に感じていただき、これから川ガキがどんどん増えてくれたら最高ですね。

(取材/山縣 基与志)